



2025年夏休みを振り返って 模擬国連

いよいよ2学期が始まりましたが、充実した夏休みを過ごすことができたでしょうか？グローバルな分野で活躍した生徒諸君のレポートをお届けします。まずは8月4日・5日に開催された第9回全国中高教育模擬国連大会についてです。学期中の練習会では東京近郊の学校同士で集まることが多いのですが、夏休み中の全国規模の開催となるこの大会は文字通り北から南まで112校から約750名の生徒が参加しました。昨年までは高校生のみの大会でしたが、今年から各校1ペアに限って中学生にも門戸が開かれることになりました。今年は「AIと軍事」というテーマで熱い議論が交わされました。本校からエントリーした中3ペアが見事中学生議場で最優秀賞を獲得しました。高校生議場でも2ペアが優秀賞を獲得しました。各ペアから原稿を寄せてもらいましたのでぜひお目通し下さい。

ニュージーランド大使 中学3年 中川 侑志・竹村 是清

私たちは今大会で初開催となった中学生議場で最優秀賞を頂くことができました。

私たちが会議前に最も強く感じていたのは、初めての全国大会への不安でした。今回の大会では初めて中学生議場が設けられ、大会のレベルや雰囲気を知りたかったからです。

初日こそ自分たちの想定通りに議論を進めることができたのですが、二日目は僕たちの想定とはかけ離れた状況に陥り、絶望するような瞬間もありました。しかし、その中でも互いにその時々でベストな行動をし、最終的に決議案提出という理想の形で終わることができました。緊張と不安の入り混じる中で迎えた受賞者発表の瞬間、自分たちの担当国の名前が呼ばれたときには、思わず立ち上がり、達成感と安堵、そして喜びが一気に込み上げてきました。

私たちは今回の会議を通して、自分たちが模擬国連をする意味を再確認することができました。中高生が国際課題について話し合うことの意味を再確認することができました。

今回の会議を成功体験とだけ捉えるのではなく、自分たちの今後の成長の糧にして努力を重ねていこうと思います。



閉会式後に大会バナーの前で集合写真

パナマ大使 高校1年 長谷川 浩鷹・松尾 治輝

私たちは、中学一年の時から模擬国連でペアを組み、これまで校外の大会に参加して経験を積んできました。今年、高校生になって初めて全国大会である「AJEMUN」に出場し、優秀賞をいただくことができました。

全国から多くの高校生が集まる大会では、さまざまな視点や意見に触れることができ、大きな刺激を受けました。議論の場では、相手の意見を正しく理解し、自分たちの立場をはっきりと示すこと、そして立場が異なる人と協力して合意点を見つけることが求められます。初めての全国大会で緊張もありましたが、これまで二人で準備を重ねてきたことが成果につながったと思います。

模擬国連は、一人ではできない活動です。ペアとしての協力はもちろん、他校の参加者と議論を重ねる中で、多くの学びを得ることができました。今回の経験を通じて、自分たちがまだ成長できる部分を実感するとともに、今後の挑戦へとつながる大きな一歩になったと感じています。

アメリカ大使 高校2年 佐本 一樹・南部 航希

私たちは今年から新しくペアを組み、模索を重ねながら活動を続けてきました。その成果もあって、この夏の AJEMUN（全国中高教育模擬国連大会）では、ありがたいことに優秀賞をいただくことができました。昨年と比べて確かな成長を実感できたため、今後の大会への大きな自信につながったとペア共々嬉しく思っています。

しかし、お互いにベストを尽くせた会議だったこともあり、最優秀賞に届かなかったことには悔しさも残ります。この「ベストを尽くしてもなお届かなかった」という経験は、自分たちに足りない部分を明確に示してくれました。だからこそ今回の結果を挫折ではなく糧として受け止め、改善を重ねて、冬の全国大会では心から納得できる成果を残したいと思います。

高校2年生の私たちにとって、おそらく今年が最後の模擬国連活動になるでしょう。その締めくくりに「最高だった」と飾りなく言えるよう、これからも努力を惜しまず挑み続けていきます。

2025年夏休みを振り返って AIG 外交官プログラム

昨年12月グローバル通信147号でAIG外交官プログラムをご紹介しました。渡米プログラム・日本プログラムの2つがあり、日米の高校生が寝食を共にし、様々なトピックについて議論を深め、自国の文化を互いに紹介しながら交流する行事です。高校2年生の守田君が渡米プログラムの選考を通過して7月19日～8月3日にアメリカへ行ってきました。こちら原稿を寄せてもらいましたので来年以降参加を希望する生徒諸君はぜひ参考にしてみてください。

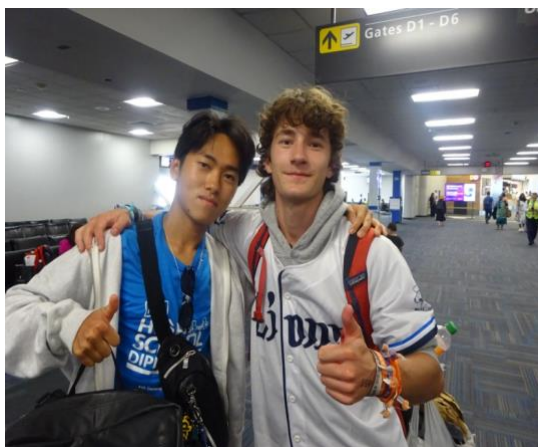
高校2年 守田 叶佑

“Seize the wind!” これはこのプログラムのスローガンです。「身の回りに吹く風=成長の機会」を逃さず掴みどんな風も自分の力に変えようという意味なのですが、まさにこのプログラムでの日々は“Seize the wind!”の連続でした。

渡米中は「高校生外交官」として国際的な問題をアメリカの高校生や国際機関の職員など様々な価値観をもった人と議論する機会がたくさんあったのですが、その中で日本人を代表して意見を発信する難しさや、もちろん英語で自分の意見を伝える難しさから発言を躊躇うことも多々ありました。しかし“Seize the wind!”のマインドをその都度思い出し、思い切って自分の殻を破ることができました。

またこのプログラムの醍醐味は「真の人間交流」ができるところにあると思っています。渡米中、ほとんどの時間をアメリカ人のルームメイトと過ごしたのですが、彼とはお互いの全てを共有しました。自分にとって自分の深いところまで他の人と共有し助け合う経験は彼とが初めてでした。彼との「真の人間交流」を通して人との付き合いの重要性やその可能性に気づき自分の心を大きく成長させることができました。

このような機会を下さり本当にありがとうございました。



帰国前に空港で撮ったルームメイトとの写真



Flag Exchangeの様子。プログラムの最後にルームメイトと、それぞれの国旗を交換しました。

ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)説明会のお知らせ（現高1 限定）

ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)とは世界各国から選抜・派遣された高校生を国際バカロレア (IB) ディプロマ課程のカリキュラムに基づき教育し、国際感覚豊かな人材を養成するため 1962年に設立された民間の中等教育機関です。現在、英国、ドイツ、カナダ、イタリア、米国、香港、ノルウェー、オランダなど18カ国・地域にUWCカレッジが置かれています。この度、2026年度派遣生に関する説明会が開催されることとなったためお知らせします。

説明会日時：9月21日（日）10時～12時30分

形式：ZOOMを用いたウェビナー形式

申込：下記のウェブサイトから各自で申し込んで下さい（9月16日まで）。

<https://www.keidanren.or.jp/announce/2025/0806-UWC.html>

内容：1. UWCとは／UWC日本協会の活動

2. 国際バカロレア (IB) とは

3. 2026年度派遣生の選考

4. カレッジ派遣に関する注意事項

5. カレッジの紹介

6. 卒業後の進路



応募資格などは以下の URL からご覧いただけます。

<https://www.keidanren.or.jp/japanese/profile/UWC/invitation2026.html>

現時点で公表されている選考日程は以下の通りです。

一次選考：2025年12月14日（日）13時45分～16時

場所：大手町サンケイプラザ3F 302・303号室

二次選考：2026年2月16日（月）

場所：経団連会館

*このプログラムは高校2年の9月から現地に向かい2年間でUWCの卒業資格を取ることを前提にしています。1年後に本校に復学する通常の留学とは大きく異なるものですので、各自の将来設計を考え併せてくれぐれも慎重にご検討下さい。過去に本校からも何名かの生徒が見事選考を通過しUWCで学んだという例がありますが、いずれも出発時点で本校には学籍を残さず退路を絶った状態で旅立って行きました。

TOEFL iBT 割引受験のお知らせ

海外大学を受験する際に自分の英語力を証明する物差しとして TOEFL か IELTS がよく使用されます。今回 ETS Japan 合同会社より本校の生徒限定で TOEFL 通常受験料\$195 の所を 10%オフで割引受験できるという案内をいただきました。今月末までが対象となりますので、うまくスケジュールの合う人がいれば利用して下さい。クーポンの情報はここでは公開できないため希望者にはチラシを差し上げますので2号館2階グローバル教育部の部屋までどうぞ。クーポンを受け取っても記載情報を自校・他校を含めて友人と共有したり、SNS を通じての拡散は固く禁止されています。あくまでも自分自身の手元でのみ利用することを守って下さい。

ご参考までに留学するのにどれ位のスコアが必要となるのかが分かる資料を次ページに添付します。

試験の概要

Reading, Listening, Speaking, Writing の4セクション（各セクション0~30のスコア）試験が実施され合計0~120のスコアが出ます。1回の試験に約2時間を要します。

2026年1月21日より開始されるアップデート版の詳細情報が7月に公開されました。詳細は以下の URL よりご覧下さい。

<https://www.toefl-ibt.jp/release/20250708/>

***toefl ibt.**

TOEFL®スコア能力表						
TOEFL ITP®のスコアはTOEFL® PBTのスコアにそのまま置き換えることができます。(TOEFL iBT®スコアは目安です)						
CEFR	TOEFL iBT® 0-120	ガイドライン	必要とされる スコア	TOEFLテストスコアデータ		TOEFL ITP® スコアレレンジ
				TOEFL iBT® 0-120	TOEFL ITP® L1 310-677 L2 200-500	
C1 95- 620	100-120	ビジネスや日常生活、大学生活を送る上で不自由なくコミュニケーションができる。テレビやラジオ、会議や講義で普通に話すネイティブスピーカーの言葉も困難なく聞き取れる。ビジネス、生活面、大学の授業等で支障なく様々な文章を読んだり、話を聞いたりすることができ、ネイティブスピーカーと遜色なく議論もできる。またプレゼンテーションも充分に行え、そこでの議論や意見を聞いて、もう一度自分の考えを組み立て直すことも可能。読み手を意識した、正確でわかりやすい論理的文章を書くことができる。米国のトップレベルの大学(院)入学に求められる高度な英語能力を保有している(例:ハーバード、スタンフォード等)。	↑ 大学院留学 ↓ 学部留学			600-677
B2 72- 543-	79-100	ビジネスや日常生活、大学等の場面で、自分の分野以外に関する事柄も理解することができ、個人差はあるが、相手とジョークを交えつつ、柔軟にコミュニケーションを取ることができる。テレビやラジオ、会議や授業で普通に話すネイティブスピーカーの言葉も聞き取れる。議論や様々な話題にも充分についていけ、質疑応答も可能。様々なトピックに関して、よく構成された正確な文章を書くことができる。		87		550-600
B1 42- 433-	61-79	日常生活でのコミュニケーションはほぼ支障はない。ビジネスや大学等の場面では、自分の専門分野であれば、具体的・抽象的なトピックにおいて、技術的な事柄も含め、その要点を充分に理解できる。会議や授業で話題になっていることに対し、相手を見て具体的な例を挙げて自分の考えを説明することができるが、語彙の部分で不足を感じるときもある。自分の興味のある題材・話題に関して明確・詳細な文章を書くことができる。		73		500-550
	45-61	ビジネス、学校、日常生活において、一般的によく知られた事柄に関しては文面や話の中でその要点をつかみ、自分の考えを発信することも可能。通常の日常生活に支障はない。また自分に興味のあること、知識のあることに関しては、巧拙の差はあるが自分の考えをまとめてプレゼンを行ったり、複雑ではないが具体的な文章を書くことができる。		世界の受験者の平均点	L1 476.28	450-500
A2 34- 343-	32-45	日常なこと、仕事に関する簡単な文章を読むことができる。通常の会話で、自分と繋がりが深いもの(家族、買い物、自分の住んでいる所、仕事、専門)に関して、簡単な言葉でコミュニケーションをすることが可能。また、「But」「Because」のような接続詞を使って簡単な文章を書くことができる。		日本の受験者の平均点	日本の大学生の平均点	400-450
	19-32	日常よく使われる表現や基本的なフレーズを用いて、必要最低限のコミュニケーションができる。身近なこと(自己紹介、どこに住んでいるか、自分の知っている人、持ち物等)であれば質問をしたり、答えることもできる。ゆっくり話してもらったり、人の手助けを借りて、相手と意志の疎通が可能。短い文節で単純な文章を書くことはできる。			L2 406.20 日本の大学生の平均	350-400

今号は以上となります。9月からもしばらく暑い日が続きそうですが、2学期も皆さんの知的好奇心を刺激するような記事をお届けしていきたいと思います。

前号154号でご紹介した高2限定のアスペンジュニアセミナーの校内エントリーは9月5日(金)午前8時が締め切りです。A4用紙に必要なことを記載した上でグローバル教育部に申し出て下さい。